鳥栖市の歩み

当時の市報の記事で
鳥栖市の歩みを振り返ります

（昭和49年）　（昭和58年）
1974～1983

▲第279号【昭和49年6月18日発行】

保護者の要望で、1974（昭和49）年6月に鳥栖北小学校で始められた、放課後児童クラブ『なかよしかい』。翌年には鳥栖小学校校区にも開設されました。

▲第324号【昭和51年5月1日発行】

1976（昭和51）年4月に開館した市民体育館。「まずは先輩市民に」との原市長（当時）の考えで、同館使用第1号として市老人福祉大会が開催され、約1,600人のお年寄りが参集しました。

◀第337号【昭和51年11月15日発行】

1976（昭和51）年10月24日～29日に佐賀県で開催された『第31回国民体育大会（若楠国体）』の秋季大会の様子。各競技で、地元の大声援を受けた鳥栖市出身選手の活躍がみられました。また、市内ではバレーボール（市民体育館）と馬術（佐賀競馬場）が開催され、全国から選手や監督など約1,500人が参加。市内の宿泊施設だけでは収容できず、民泊引き受け家庭として263世帯が協力しました。また、食事作りや駐車場整備、会場美化などに多くの市民が協力し、大会を盛り上げました。

同年11月6日・7日には、佐賀市で『第12回全国身体障害者スポーツ大会』も開催され、鳥栖市から3選手が出場。卓球やアーチェリーなどで健闘しました。

◀第338号【昭和51年12月1日発行】

新校名は「若葉小」と決まる

◀第354号【昭和52年8月1日発行】

古賀町に新設する小学校の案内。校名は公募し、『古賀』『田代西』など29種が寄せられましたが「地名は避け、こどもの伸びゆく力を表すもの」という基準から、鳥栖北小6年の中島悠子さんが考えた『若葉』に決定されました。若葉小は1978（昭和53）年4月に開校し、翌年1月には校歌の歌詞も公募。市内外から28編が集まり、同校6年の西村伸広さんの歌詞が採用され、元教諭の古賀哲さんが補作、陶山聰（すやまさとし）さんが作曲して完成しました。

安永田遺跡から銅鐸鋳型が出土

～九州で初めての発見、考古学上貴重な資料～

◀第415号【昭和55年2月15日発行】

1979（昭和54）年11月に柚比町の安永田遺跡から出土した銅鐸鋳型の写真。弥生時代の国内の文化分布圏の定説をくつがえす貴重な資料として、教科書を書き換える発見とされ、全国から注目を集めました。

久光製薬女子バレー部 日本リーグ入りおめでとう

◀第445号【昭和56年5月15日発行】

1981（昭和56）年、久光製薬女子バレーボール部（現：SAGA久光スプリングス）が、Vリーグの前身である日本リーグ入りを決定し、同年4月26日に鳥栖商工会館で祝賀会を開催。当時の選手は全員が九州出身者でした。

▶第421号【昭和55年5月16日発行】

1980（昭和55）年4月に完成した市民球場。記念行事の一環でイースタンリーグ『巨人対西武』戦が開催され、市内初開催のプロ野球公式戦に、約3,500人が駆け付けました。

1982（昭和57）年7月には、市民文化会館が開館。こけら落とし以降、市内と三養基・神埼郡の小・中学校、高校が参加した『学校音楽祭』や、市文化連盟主催で数百人の市民が出演した『市民芸能祭』など、ほぼ毎日多彩な催しが開催されました。

▲第472号
（市民文化会館落成記念特集号）
【昭和57年6月23日発行】

この時期の主なできごと

- **'74（S49）** 市の人口が5万人を突破▼鳥栖北小に『なかよしかい』発足
- **'75（S50）** 九州縦貫自動車道・古賀ー鳥栖間開通▼初の人生記念樹配布▼市の名木を指定（21樹木、1樹林）
- **'76（S51）** 上水道通水式、宝満川から市独自の取水開始▼市民体育館落成▼若楠国体開催（鳥栖ではバレーボール、馬術）▼下水道管きょ敷設工事開始▼移動図書館開始
- **'77（S52）** 市民の森オープン▼鳥栖地区広域電子計算センター完成
- **'78（S53）** 重症心身障害児（者）施設『若楠療育園』開園▼鳥栖商工団地の分譲開始
- **'79（S54）** 鳥栖基山農協会館落成▼市民プール落成▼休日救急医療センター業務開始▼安永田遺跡で銅鐸の鋳型片出土
- **'80（S55）** 市民球場落成
- **'81（S56）** 久留米・鳥栖テクノポリス誘致決定
- **'82（S57）** 市民公園庭球場・市民文化会館・中央公民館落成▼都市計画街路・飯田ー蔵上線開通
- **'83（S58）** 鳥栖高校野球部が甲子園初出場▼鳥栖基山農協でアスパラガス栽培開始